

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会快適部会（第1回）	
開催年月日	平成28年4月27日（水）19:00～20:20	
場 所	中央区役所本庁舎8階 大会議室	
出席者	委員	伊藤香織、湧井恭行、大辻正高、大北恭子、磯野忠、田中広一、志村孝美、梶原寸真子、今井健、吉田不曇
	幹事	林秀哉（防災危機管理室長）、望月秀彦（環境土木部長）、田村嘉一（都市整備部長）、御郷誠（企画部副参事（都心再生・計画担当））
配布資料	中央区基本構想審議会快適部会（第1回）次第 中央区基本構想審議会「快適部会」委員・幹事名簿 中央区基本構想審議会快適部会（第1回）座席表 資料1 本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について 資料2 「快適部会」における検討項目	
議事の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 副部会長の選出について (2) 本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について (3) 「快適部会」における検討項目について (4) その他 3 閉会 	

1 開会

配布資料の確認。

2 議題

(1) 副部会長の選出について

事務局 副部会長の選任に当たっては、特に規定はないが、部会長からは同じ学識経験者である伊藤委員が副部会長として推薦されている。

(全員の拍手により承認)

(2) 本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について

(3) 「快適部会」における検討項目について

事務局から資料1「本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について」及び資料2「「快適部会」における検討項目」を説明。

伊藤副部会長 説明のあった快適部会の所掌範囲の中で、各委員が思い描く「20年後の中央区の将来像」や「将来像に向けた具体的な取組」などの自由な意見を順番にお伺いしたい。

湧井委員 関東大震災後の区画整理で消滅した旧町名に本銀町という町名があるが、先日、区に承認していただき、この町名を道路愛称名として復活させた。千代田区などでは現在、旧町名を復活させる動きがある。中央区にも世界に発信する文化、昔の遺跡が残っているが、埋もれたままで知らない方が多くいる。千代田区には多くの案内板が設置されており、坂にはその歴史なども書いてある。中央区には名所・旧跡が数多くあるので、それを世界の人々に伝える取組を進める必要がある。

大辻委員 私は医師会に所属しているので、医師の立場で発言させていただく。25年前と比べて、医師の数は減少しており、特に小児科医不足が顕著である。一方、区内では、毎年1,700人程の新生児が生まれており、小児科医が必要である。日本橋地域は耳鼻科医が4人で、学校で耳鼻科検診をする際は4人の耳鼻科医が3日も自院を休んで行う状況である。

また、中央区は喘息患者が多いまちでもあり、大気汚染の議論も必要である。

防災対策については、東日本大震災、熊本地震、平成7年のサリン事件、今後はテロなどの可能性もあり、対応について議論する必要があると思う。

大北委員 私は中央区に住み始めてまもなく50年になる。中央区は住みやすいまちで日常的な不自由はないが、あえて言うと買い物難民という点である。例えば、私が住んでいる新橋演舞場の近くでは商店がほとんどなく、築地まで行く必要がある。

災害については、銀座中学校で年に1回防災訓練を行っているが、銀座六丁目は住民が10名にも満たない数で、他は全て企業である。今の防災訓練の参加者は区民がほとんどで、企業の方とも一緒に訓練ができればと思う。また、現在、外国人来訪者が多くいるが、地震発生時の対応を考える必要があると思う。

磯野委員 前回、基本構想を策定した時は人口が減少しており、人口増加に向けた取組を進めてきた。

現在は人口が増えており、今後も増加が予想される。高層マンションでは引越しが頻繁にあり、住民が多く入れ替わっているが、区民が定住することが一番良いと考えている。そうした部分で何が足りないのか課題を取り上げた上で、この基本構想に反映させる必要がある。

他の委員からも話が出たが、月島地域の居住者からは日常の買い物に不便であるという話も出ている。こうした課題をまちづくりの一環として取り上げる必要があ

る。また、交通網については臨海部では不便な地域もあることから交通網の整備を進める必要があると感じている。

また、老朽化したマンションについては、お住まいの方が高齢化して建て替えが難しい状況も見受けられることから、まちづくりを総合的に考える必要がある。

高齢の方が安心して住み続けられるまち、子どもを安心して産み育てられる中央区の実現に向けて基本構想の策定に取り組んでいきたい。

田中委員

まちづくりには「安心・安全」に加えて「安定」が必要と考えている。防災対策には、自助・共助ともに重要であるが、根底は一人ひとりの防災意識の向上である。これは、災害の多い日本の中の、かつ昼間人口の多い都心で生活していく上での、1つのマナーだと思う。

また、現在は、子どもの人口も増えている。以前は、道路や川沿いなどのスペースで遊んでいたが危ないということもあり、今は、遊べる場所や緑に触れ合えるスペースが少なくなっている。そのため、緑あふれる公園を拡大していくとともに顔が見える広場作りも進めていただきたい。

最後に、まちの活性化のためには、若い方が活動するまちであることが重要だと思う。中央区が大学・高校の発祥の地域であったことも踏まえ、「地域文化をいかし未来を実現するまちづくり」の中に教育機関の誘致も行う必要がある。若い世代が常に来て区内で活躍する、そこにまちの発展があるのではないかと感じている。

志村委員

私は、区民の生活が豊かになる基本構想をつくりたいと考えている。審議会資料1-2「中央区の将来像に向けた検討すべき視点」について話をさせていただく。

資料を見ると、区民ニーズへの対応は区の負担を軽くし、世界一の都市づくりには区民や民間事業者、区の総合力を結集させようと読めなくもない。検討すべき視点ということですが、この視点を検討することも必要であると感じた。

また、基本構想の中で求められる「快適」とは何かと考えてみたが、鉄とコンクリートによるまちづくりからは機能性や効率性、合理性が生まれ、そこから快適も生まれるかと思うが、区民生活の中で求められる快適とは少し異なると思う。

例えば、佃の路地を歩くと快適さを感じ、築地市場や場外市場は雑然に見えるが、どこか快適で楽しい居心地が良い空間である。どちらの快適を基本構想で求めるのか議論できればと思う。

また、大規模開発は、日影や景観、整備の追いつかないインフラ、コミュニティの破壊などの点から、快適なのかは議論の余地がある。こういったことが中央区の抱える課題ではないかと思う。開発をコントロールしながら適正に保ち、豊かな生活をできる中央区にできればと感じている。

伊藤副部長

大学の授業で快適とは何かと議論をすると、ものづくりから考えてしまうが、そこに暮らす人がどのように生活するのかビジョンを描き、その上でハードを考えるように指導している。結果として鉄とコンクリートとなることもあれば、佃の路地のような空間を残す方向となることもある。

梶原委員

検討項目の初めに災害の項目があることに安心したと同時に、時代を捉えていると感じた。最近、水天宮駅の近くに立派な公園が整備され、子どもたちが喜んでる姿を見て嬉しく感じた。公園などは維持管理が必要となるが、今後は区だけでなくボランティアの方々の力も活用して、できる人ができることをしていくというコミュニティができればよいと思う。

また、緑を増やすべきである。銀座や隅田川沿いなどにも植栽が可能な場所は多くある。それを行政だけではなく、ボランティアの力を結集できれば、一層快適なまちになると思う。

1つ質問したい。啓発活動を充分に実施している印象はあるが、区内でオレオレ

詐欺のような事件はどの程度あったのかお教えいただきたい。

事務局

昨年、都内では1,879件、67億円の被害があった。中央区内では金額は不明であるが9件となっている。

今井委員

検討項目を見て、非常に合理的かつ網羅的で、3つの大項目を満たすと区民、在勤者も快適になるのではないかと感じている。

私の専門であるICTの利活用で何かできることがあると思う。例えば、訪日外国人の最大の不満は看板がなく分かりづらいことと、通信環境が不整備であることとされている。民間による無線LANの設置、訪日外国人向け通信サービスの提供が行われおり、これらは徐々に解決していくと思われ、今後ICTを活用できる。また、買い物難民についてもICTとロボットの技術を組み合わせることができる。例えばドローンで届くといったことが10年後であれば実現するのではないかと思う。また、コミュニティもICTを活用して住民と企業がコミュニケーションをとってコラボレーションが生まれる仕組み作りができるのではないかと思う。

災害や地域ぐるみの活動としてアメリカでは、台風翌日に木が倒れていた際にSNSで発信すると行政に連絡が届き、対応している。これは、若い世代がSNSを利用し、行政だけではできない細かな活動を補える1つの事例である。まさに資料1「中央区の将来像に向けた検討すべき視点」で示している内容だと感じており、サービス受益者である区民や民間企業の知恵を提供側に呼び込むことが可能であると思うとともに、既に取り入れられているものもかなりあると思う。

最後に、検討項目の「魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」は区民からすると、住んでいることを自慢したい、誇りを持ちたいということだと思う。中央区が他の地域の参考となるようなまちになれば嬉しいと感じている。

吉田委員

本区は人口が減少していた時期が長く、これまでの施策は人口を増やすことが前提となっていた。現在は人口増加に対し、行政としてどうするかを明確にし、基本構想に盛り込むため、委員の方々に本審議会で検討していただいている。その中で、1つの課題は人口や出生数の増加による公共施設不足といったことである。また、家族の単位について、中央区の実態を見ると、核家族化が進んでおり、家族で物事を完結するには限界が来ていると思う。例えば、共働きの場合は遅くまで子どもを保育園などで預けるということになる。行政はあるべき家族像にしがみつくとなく、実態に則した対応を行う必要がある。

また、子どもたちの食事については一番気になっている。共働きで親が迎えにくるのが遅く、夕食が深夜になる子どもたちなどに行政が何を行うことができるのかと感じている。都市での生活モデルは、過去は大家族を前提としていたが現在はそうっておらず、また、人々も望んでいない状況かと思われる。現在の家族像と旧来の施策をどのように埋め合わせるかを考えなくてはいけないと感じている。

梶原委員の話にあった「できる人ができることをやる」といったことをさまざまな分野に広げて、行政と地域が協働で区民を幸せにできればと思う。

伊藤副部長

話が一巡したので、私を感じたこともお話しさせていただきたいと思う。初めに検討項目を見たときに、中央区として考えなくてはいけない特徴的な事象があると感じた。

1つは、選手村跡地の計画により人口が増えることとなるが、人口の年齢構成がどのようになるのか、ある一時期に類似した世帯の方々が入ることが想定されるのか否かが気になる。過去の開発状況を考えると、ニュータウンでは問題が顕在化している。新しいまちができていくときに、どのように人を入れていくのかを考えていく必要があると考えている。

2つ目は水辺であるが、国でも水辺を活性化していこうとする流れがある。その

一つが規制緩和で、行政に限らず、やる気のある人に責任を持って取り組んでもらおうというものである。中央区は歴史的にも水辺が多い地域であり、水上とまちをつなぐことも含めて基本構想を描ければと思う。

3つ目は交通であるが、基幹交通システムは重要で利便性が高まると思う。ただ、それだけではなく、歩きやすい、歩いて暮らせるということが重要である。地方都市ではよくいわれているが、都心こそ都心らしいコンパクトシティのビジョンを描ければと思う。

他に意見があればお聞かせいただきたい。

湧井委員

保育園の問題は深刻であると感じた。特に保育士の待遇や保育園の設置場所など国レベルの問題となっている。また、今後も選手村の住宅転用によって保育園不足という問題が出ると思う。これまでは大家族で子どもを育てる習慣があり、祖父母の姿を見て日本人の在り方を学んだりもしていた。

そこで1つ提案をさせていただく。例えば、2世帯住宅に住む人を優遇し、子どもたちを家族で育てることが考えられる。子どもたちもそれが一番幸せかと思う。

吉田委員

第1回審議会の基礎調査報告にもあったが一緒に住まない人も多い。また、本区に居住する方は通勤時間を惜しむ共働きが多く、大家族は難しいのではないかと思う。平成10年頃から施策として2世帯住宅などを誘導したが失敗している。

伊藤副部長
志村委員

最近では2世帯ではなく、近居といった形も増えている。

資料1「本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について」の6ページの「方向性（あるべき姿）」について、再開発事業や国家戦略特区の活用に関及があるが、このことについても議論する必要がある。

次に、この国家戦略特区を活用しながら、「区内に展開している数多くの企業を活かし」とあるが、中央区に数多くある中小企業をどのように活性化していくのか、あるべき姿をもう少し議論を深める必要があると思う。

伊藤副部長

他にあるか。

(意見、挙手などなし。)

伊藤副部長

いただいた意見を踏まえて、次回以降は各項目の具体的な審議を進めていきたい。事務局より次回の開催日程及び今後の進め方について説明。

3 閉会

伊藤副部長の閉会宣言により終了。